

グリーン調達

「富士通グループ グリーン調達基準」に基づき、グリーン調達の対象分野をすべての調達品に拡大し、国内および海外のお取引先のご協力を得て、さらに内容を充実していきます。

第4期環境行動計画目標

環境マネジメントシステム(EMS)が構築された取引先からの調達比率を2006年度末までに100%とする
グリーン調達適合率

2004年度の実績

すべての調達品(製品用部品・材料・ソフトウェア・設備・工事・保守など)を対象として、EMSが構築された取引先からの調達比率98.3%を達成

グリーン調達の枠組み

環境保全をはじめとした企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)が注目を集め、各社の経営姿勢に対する関心が高まるなか、富士通グループは、生産用部材からソフトウェア・サービスまで、お取引先の協力を得ながら、グリーン調達の対象分野を拡大しています。

調達に際しては「富士通グループグリーン調達基準」に基づき、お取引先に対して環境マネジメントシステム(EMS)構築および指定有害物質全廃などを要請し、調査票などによって取り組み状況を確認しています。また、基準に達していないお取引先に対しては、購買部門をはじめ富士通グループの関連部門がPDCAサイクルを活用したEMSの構築・運用・定着化をサポートしています。

<http://procurement.fujitsu.com/jp/green.html>

グリーン調達の主な要件

富士通グループでは、グリーン調達の推進にあたり、以下の内容を満たすことを要件としてお取引先からの調達を行っています。

EMSの構築

EMSの構築については、国際規格ISO14001などの第三者認証取得を原則としていますが、対象領域の拡大に伴い、新たにレベルⅠを策定し、3つのレベルのいずれかに適合することを必須要件としています。

3つのレベル

レベルⅢ:ISO14001などの第三者認証取得
レベルⅡ:富士通簡易版EMSの取得(FJEMS)
レベルⅠ:環境保全活動の自己チェックと目標設定

富士通グループ指定有害物質の全廃

2003年2月に公布されたEU(欧州連合)加盟国による特定有害物質の使用制限指令(RoHS指令)への対応として、2004年11月に「富士通グループ グリーン調達基準」を改定(第3.0版)し、有害物質含有の定義などについての見解を明示しました。これに基づくお取引先への説明会も計14回実施しており、調達品の有害物質全廃に向けた活動を一層加速しています。

2004年度の実績

2004年度のグリーン調達適合率(実績)は、3カ年計画の初年度にも関わらず、お取引先のご協力により、98.3%まで達成することができました。

富士通と国内のグループ会社(ハード系30社+ソリューション系48社=計78社)が管轄するお取引先に対して、全国各地での説明会を実施したほか、環境対策調査票による実態調査を実施することで、EMS構築を支援しました。

今後は、お取引先のEMS構築レベルの質的向上を図るとともに、海外のグループ会社が管轄するお取引先も対象に加え、グリーン調達活動の範囲を拡大していく予定です。さらに、2005年度からは、定期的にEMSレベルアップ説明会やサンプリングによる現地審査などを実施していく計画です。

2004年度の活動事例

「RoHS指令対応部品展示会」を開催

2004年10月、富士通グループの開発、設計部門と環境、購買部門を対象とした「RoHS指令対応部品展示会」およびセミナーを川崎工場で開催しました。開催にあたっては、環境活動に積極的に取り組むお取引先13社(半導体・電子部品、電源ユニット、メカニカル加工品など)のご協力をいただき、対象物品の展示と先進的な取り組み事例をセミナー形式でご紹介いただきました。総勢、700名を超える参加者があり、今後の開発製品に有意義な情報共有の場となりました。



RoHS展示会の様子

グリーン調達の枠組み

